

No.317

理研会報

第 54 回印旛郡市理科作品展

9 月 22 日（水）に印旛教育会館にて印旛郡市理科作品展の審査を、また、25 日（土）に公開展示を行いました。

工夫作品の総出品数は小学校 355 点、中学校 106 点。論文の総出品数は小学校 1059 点、中学校 416 点。これらの出品されたものを各部会で審査し、金賞に選ばれたものをさらに審査をし、優秀な作品を県理科作品展に出品しました。

本号では、審査の講評や作品展の様子をお知らせいたします。

理科作品展の様子

300 名を超す来場者！

今年度も昨年度と同様に会場を印旛教育会館にしました。そして、公開展示があることを印旛郡市 11 市町村の広報誌に載せました。

おかげさまで、昨年度 200 名の来場者を大きく上回り、今年度は 300 名を超えるほどの盛況ぶりでした。



審査の講評：工夫作品の部

<小学校の部>

佐久間保男先生(印西市立小倉台小)

今年度の小学校「科学工夫作品の部」で気がついたことをいくつか述べさせていただきます。今年度も優秀な作品が多く、審査員が頭を抱え

込んでしまう場面がたびたびありました。

1, 2 年生の作品はゴムの弾性や磁石の性質を利用したり、紙の弾性を利用したりする作品が多く、楽しいゲーム的な作品が多かったのが特徴です。

3, 4 年生の作品は生活経験から来るものや磁石の性質を利用し電池を使用するなど物を組み合わせた作品が目につきました。

5, 6 年生は、電池を用いて磁石をつくり、物を動かしたり、理科学習の発展的な作品があったりと、まさに科学工夫展にふさわしい作品でした。



<中学校の部>

清水 龍彦先生(佐倉市立南部中)

中学校の工夫工作は毎年出品点数が少なく、選考に苦慮しています。工夫工作は「工夫」がポイントです。県展の審査の観点にも、ア・着想が新しいか。イ・創意工夫が盛り込まれているか。ウ・研究努力が積まれているか。エ・学年にふさわしいものか。とあげられております。日頃の生活で不便だとか困ったなどいうことをあためておいて、解決するような作品を作ってみるようにご指導いただければと思います。また、出品点数を増やす指導もお願いします

審査の講評：論文の部

<小学校の部>

江村 司先生(成田市立成田小)

各部会の審査を経た作品を集めての本審査は、どの作品も力作揃いの中で慎重に進められました。審査の観点は、次の 4 点で行いました。

- ① 自然科学を対象としたものか
- ② 着想が新しいか
- ③ 研究努力が積まれているか
- ④ 学年にふさわしいものか

平成 17 年 12 月 14 日

審査の結果、金賞に選ばれた作品は、研究の目的（何を疑問に思い、明らかにしたいのか）に向かって様々な方法で、地道に努力を積んでいるものでした。子どもたちの「理科離れ」が進んでいるといわれる中で、出品作品を見る限り、その質の高さを感じ、頼もしく思いました。

今後も自然科学に興味関心を持ち、自ら探求しようとする子どもたちが増えることを願ってやみません。



<中学校の部>

麻生 辰浩先生(成田市立玉造中)

各部会から約50点の作品が集まり、いずれも優れた作品ばかりでした。作品の傾向としては、環境問題に関連したものが多く出品されていました。長い時間を費やして実験・観察をし、結果を導き出したもの。写真やデータをパソコンを駆使して丁寧にまとめたものなど、優れた作品が目を引きました。

審査の観点は、独自性があり研究努力がなされているかという点に重点がおかれまして。金賞に選ばれた作品は、実験データ数が豊富であり、適切に処理されています。また、考察を丁寧に言い、中学生の視点に立ったまとめ方をしています。どの作品も担当の先生の指導の成果が随所に見られ、次年度の指導の参考にしたいと思います。

審査の講評:標本の部

<小学校の部>

佐藤由美子先生(佐倉市立白銀小)

今年度の全体的な傾向としては、従来の植物や昆虫の他に、岩石や貝、地衣類などの多様な標本が見られたことでした。

低学年らしく子どもらしい一生懸命さが伝わる標本処理の仕方から、これぞ標本のお手本といった作品まで、標本としての処理の仕方

理科研究部事務局：印西市立原山小

様々でした。それぞれの標本の良さが、審査において悩む面がありましたが、①ある程度、標本としての個体数の多いもの ②標本処理が丁寧で工夫があるもの ③標本収集としてのテーマがある程度わかりやすいもの ④学年相応の標本であること ⑤採集日時や場所が明記されているもの、を基準にしました。

また、丁寧な処理がされていても惜しいなど思われるものもありましたので、①植物標本には根をつける。(大きいものは途中で切ってもよい)、②植物の葉は出来るだけ重ねずに広げ、葉のつき方がわかるようにする。③昆虫はできたら羽を広げ切れぬようにする。等に気をつけてほしいと思いました。

小学校時代6年間を同じテーマで植物採集を続け、それを積み上げた作品や、毒草の標本にタバコを入れたユーモアあふれるものまで見られ、標本を通して子どもたちの生き生きとした姿がうかがえました。

<中学校の部>

松田 治久先生(白井市立七次台中)

今年の夏は、住宅地でサソリが発見されたり、川でワニが捕獲されたなどが話題になりました。夏季作品展の標本の部にも、日本では自然に生息しないようなカブトムシやクワガタの標本が出品されていました。

一方で市販されている「しらす干し」を注意深く観察し、カニやエビの幼生や様々な魚の稚魚を拾い出して標本にしたものや、海岸にある貝殻を丁寧に調べたもの、身近にある植物の標本をラミネート処理して両面がわかるようにファイル化したものなど、比較的に入手しやすいものに着目し、深く見詰め、標本にするための工夫がなされた作品も見られました。

我々が生活している地域にも様々な植物や生物が生息しており、よく見ると思いもよらぬ発見があるものです。日常の理科指導の中で身近な自然に目を向けさせ、科学的にもものを見る力を育てたいものです。